

# 平成28年度病害虫発生予察注意報第3号

平成28年5月31日  
愛 知 県

作物名：果樹（ウメ、モモ、ナシ、ブドウ、カキ等）  
病害虫名：果樹カメムシ類（チャバネアオカメムシ）

- 1 発生地域 県内全域
- 2 発生時期 やや早い
- 3 発生程度 やや多い
- 4 注意報発表の根拠

- (1) チャバネアオカメムシの越冬成虫密度調査を行った結果、平均越冬成虫密度は0.9頭/㎡で、越冬世代成虫が果樹園に連続的に飛来しウメ、モモ、ナシ、ブドウ、カキなどで被害がやや多かった平成18年、平成20年、平成24年並であった（図1）。
- (2) 新城市に設置したフェロモントラップにおいてチャバネアオカメムシの誘殺数が、5月第4半旬に急増した（図2）。過去10年間の果樹カメムシ多発年に比べ、飛来の急増時期が早く、5月第4半旬までの累積誘殺数は過去10年で最も多い。
- (3) 東三河地域では、5月中旬以降、カンキツ園で多飛来が確認された。また、ウメ園やモモ園では、被害も出始めている。
- (4) 名古屋地方気象台5月26日発表の1か月予報によれば、気温は高い見込みで、今後チャバネアオカメムシの果樹園への飛来増加に伴う被害の発生が予想される。

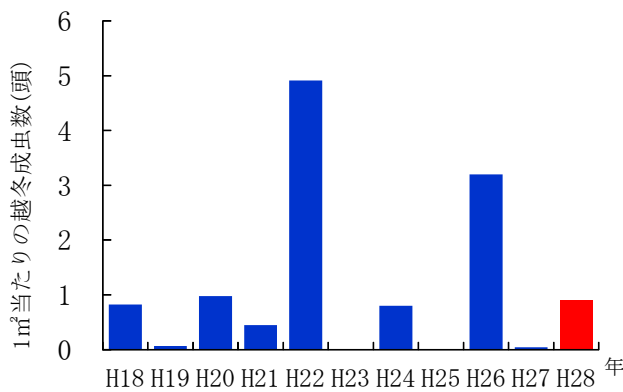


図1 チャバネアオカメムシの越冬成虫密度

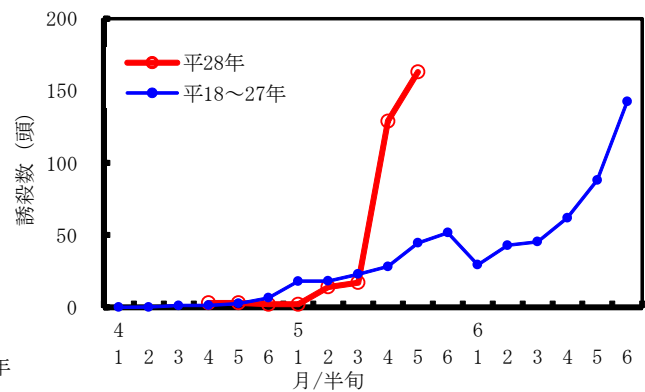


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシの成虫誘殺数（新城市）

## 5 防除対策

- (1) 果樹カメムシ類は気温が高く風の弱い夜に果樹園へ飛来することが多いので、ほ場での飛来状況をよく確認する。局地的に飛来し、集中的に加害する傾向があるため、被害の発生状況は園地間差が大きい。過去にカメムシ類の被害が多かった園では特に注意する。
- (2) 越冬成虫密度が高い年は飛来が長期間続くので、飛来を確認したら、次表を参考に残効の長いネオニコチノイド系またはピレスロイド系の薬剤を散布する。
- (3) モモ、ナシ、ブドウなどで袋がけを行う場合は、なるべく早く行う。

表 カメムシ類に対する主な防除薬剤

作物名	薬剤名	系統	使用時期	希釈倍数	使用回数
ウメ	アクタラ顆粒水溶剤	A	収穫7日前まで	2000倍	2回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内
	テルスターフロアブル	B	収穫前日まで	3000倍	2回以内
モモ	アドマイヤー水和剤	A	収穫3日前まで	1000倍	2回以内
	MR. ジョーカー水和剤	B	収穫前日まで	2000倍	2回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内
	テルスターフロアブル	B	収穫前日まで	3000倍	2回以内
ナシ	MR. ジョーカー水和剤	B	収穫14日前まで	2000倍	2回以内
	アドマイヤー水和剤	A	収穫3日前まで	1000倍	2回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内
	テルスターフロアブル	B	収穫前日まで	3000～6000倍	2回以内
ブドウ	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内
	ダントツ水溶剤	A	収穫前日まで	2000～4000倍	3回以内
カキ	MR. ジョーカー水和剤	B	収穫14日前まで	2000倍	2回以内
	アドマイヤー水和剤	A	収穫7日前まで	1000倍	3回以内
	アクタラ顆粒水溶剤	A	収穫3日前まで	2000倍	3回以内
	テルスターフロアブル	B	収穫3日前まで	3000～6000倍	2回以内
	スタークル／アルバリン 顆粒水溶剤	A	収穫前日まで	2000倍	3回以内

注) 系統の「A」はネオニコチノイド剤、「B」は合成ピレスロイド剤であることを示す。

薬剤の散布に当たっては、ラベルの表示事項を守るとともに、他の作物や周辺環境への飛散防止に努める。

## 6 連絡先

愛知県農業総合試験場環境基盤研究部病虫害防除室

電話: 0561-62-0085 (内線471)